

春うらうら

うらうら うらうらの春日あり 桃のふ花ふ

まろさかり 今日ば楽しい花子つり 花をか

ごして村人の ゆくてかえるて 花さくま

咲いた咲いたよ 桃の花

去し物桃太郎の一場面にて振袖染の女子

たん ~~桃~~が おどった 小学校一年生の時だ

その頃カと園の木浦とゆう町に住んでいた

木浦は港町で日本人の所であつた

二の町では運動会、学芸会など小学校の行事

イコイル館の一大会イベントでありました。

学芸会当日は所中でお少く、学芸会が場

所各校の講堂は場所取りの大人達がガブトニ

を採りて大いそがし学芸会は夕方までなめて

お辨当も近所とるゝ親戚同志のうたがひせで

講堂を行たり来たり三段座をガブトニのこ

へのせていくまことにゆきの学芸会だった

先生も芝居のセリフの難読でいそがしい

普段静かな講堂も今日は大騒ぎ盛んだった。その

時の字面としてある。いつもながらの春の

春到来だった